

今年も残りわずかとなり、4年生はあと1か月で卒業です。教職コースの4年生は、今年度教員採用試験（公立高等学校・中学校国語科）で過去最高の9名（福岡県5名、北九州市、長崎県、宮崎県、鹿児島県1名）が合格しました。

今まで積み重ねてきた努力が報われましたね。

おめでとうございます！

今回は、そのうち8名の合格者の皆さんに集まってもらい、今まで学んできたことや後輩に伝えたいことなどをインタビューしました。



## 出身高校

- Aさん 鹿児島県立松陽高校
- Bさん 宮崎県立都城泉ヶ丘高校
- Cさん 長崎県長崎日本大学高校
- Dさん 福岡県立須恵高校
- Eさん 福岡県立八幡中央高校
- Fさん 福岡県立小倉西高校
- Gさん 福岡県八女学院高校
- Hさん 福岡県九州国際大学付属高校

まずは志望動機からです。

【各自治体の高等学校・中学校国語科教員を志望した理由は何ですか？】

- Aさん：私の祖父が鹿児島県の中学校教員であったため、自分も将来、鹿児島で教員になることが夢でした。
- Bさん：大好きな地元、宮崎で教員になることが幼い頃からの夢でした。また、幼い頃から続けてきた書道を九女でさらに深く学んで、書写に興味をもち、中学校で書写を教えたいと強く思ったことも理由の一つです。
- Cさん：私も、生まれ育った長崎県で、幼い頃から憧れていた教員になりたかったからです。また、長崎県の平和教育とふるさと教育に携わりたいと思いました。
- Dさん：私も、生まれ育った土地である福岡県の教員になり、貢献したいと考えたためです。また、福岡県独自の鍛ほめ福岡メソッドを実践し、授業では答えを生徒が導き出せるように支援し、褒める機会を増やしたいと考えました。
- Eさん：私も同じで、北九州市で生まれ育ち、中学校で恩師に出会ったからです。
- Fさん：中学校のときの担任の先生に憧れたためです。思春期で多感な時期である中学生の成長の手助けをしたいと考えました。
- Gさん：私も、中学生の頃の国語の先生に憧れたからです。その先生が様々な面、特に進路面では親身になって支えてくれました。国語科を志望したのも、その先生に「国語はいくつになっても役に立つ」という言葉をいただいたからです。

Hさん：私が高校の国語科を志望したのは、高校3年生の時に担任だった先生に憧れたからです。その先生のように、生徒を支え、授業を楽しんで行えるような教員になりたいと思いました。

次に、大学で学んできたことについてです。

【大学で学んだことで、今後教員になって一番活かせるようなことは何ですか？】

Gさん：指導案づくり、模擬授業について先生方にご指導していただいた後、他の友達にももらったフィードバックです。この経験やフィードバックは、実習にもたくさん活かされたので、4月からの現場でも活かせると思います。

Bさん：教員になって活かせるような学びができた授業ばかりでしたが、特に実際に教材を作る授業や、模擬授業に数回取り組めたことは、自信につながりました。また、教採対策としてオフィスアワーに通ったり、教採集中対策の授業に参加したりしたことは、自身の教職に対する強い思いを再確認することができました。

Fさん：たくさんのご経験のある先生方の話を聞くことで、実際の教育現場が想像しやすく、実習でも役立つことが多くありました。

Eさん：やはり教育実習です。実際の教育現場に身を置くことで、大学の授業で得た知識を実際に活かすことや、授業の展開の仕方、生徒との関わり方などをたくさん身に付けられました。

Cさん：大学生活では、時間を有効活用することの重要性を学びました。時間割を一から組み、学習時間・

バイトの時間や部活動に取り組む時間など、全て自己管理をしなければなりません。このことは、教員になってからも、時間の使い方を工夫し、生徒と関わる時間を多く確保することに役立つと思います。

最後に、後輩に伝えたいことについてです。

【高校生や大学生が、教員採用試験合格に向けて、今からやっておいた方がいいことはありますか？】

Gさん：一次試験に向けては、セサミノートで整理する、教職ゼミに参加する、模試を受ける、自分の受ける自治体の過去問をやることです。二次試験に向けては、練習ノートを作る、自治体の過去問を徹底的にやる、とにかく回数をこなすことです。そして、何より友人とコミュニケーションをとって、フィードバックを送り合うことが、一番練習になると思います。

Aさん：教育法規は、試験対策だけでなく、実際に教員になっても心得ておくべき内容ばかりなので、重点的に勉強するとよいと思います。日頃からニュース等をよく見聞きして、教育に対する最新情報を入手しておくことも大切だと思います。

Dさん：自治体によって採用試験の内容は変わるので、目指す県や市の教育に関する情報を集めたり、採用試験の問題を解いたりしておくことが大切だと思います。あとは、大学推薦などの制度をうまく利用するために、日頃から勉学に励むことが大切です。

Hさん：4年の春から本格的に試験に向けた勉強が始まる

ので、それまでに基礎的な知識を持っておくと楽です。また、過去問を分析しておくことも大切です。地域によって出題傾向に違いがあるので、どの分野がよく出題されるか把握しておくことも、合格の鍵です。

Bさん：教職教養や一般教養、教科などの知識を身に付けること。それから、時事問題。特に教育時事は、生徒指導や教員のコンプライアンスに関することが多いので、面接に役立つと思いますよ。

Eさん：面接練習や模擬授業は、回数を重ねれば重ねるほどよいと思います。面接の答えは、一質問に対して根幹となるものを決めて、パソコンでまとめておくと頭に入りやすいです。一文まるまる覚えようとすると、一部分忘れたら自滅してしまいます。

Cさん：まず早い段階でやっておいた方がいいことは、ボランティア活動です。子どもの教育に関わるボランティアに限らず、取り組みやすい活動から始めてみるとよいと思います。教員採用試験でも、ボランティア経験の有無やそこから得たものについて質問されることがあります。また、私は教育ボランティアに参加するたびに、子どもたちから元気をもらっていました。自分のモチベーション維持のためにも、積極的にボランティアに参加してみることをお勧めします。





皆さん、ありがとうございました！九女大でたくさん  
のことを学んで、みごと合格に輝いた皆さんなら、これから  
どんな困難があっても、乗り越えていけそうですね。

すてきな先生になってください！